

国際協力 NGO センター (JANIC) ジェンダー平等推進ワーキンググループ 令和 7 年度活動報告

ジェンダー主流化について、事例の共有などを通じて具体的な実践方法の理解を深めることを目的に、令和 7 年度は次の活動を実施した。

2026 年 2 月 10 日 (火) に、気仙沼つばき会¹の千葉可奈子氏による「ジェンダー平等な地域づくり：気仙沼つばき会の取り組み」についての勉強会を実施した。東日本大震災による被害を受けて元気を取り戻そうとしている宮城県気仙沼市においてジェンダー平等に向けての取り組みの事例が紹介された。YUI みらいプロジェクトへの参加や、気仙沼未来ワークショップの実施などについて語られた。23 名が参加し、女性的世界観の水産業という構想に必要なこと、つばき会の設立経緯や会がもたらした変化などについて質問が飛び交い、男性の巻き込みについても有意義なヒントを得た。

2026 年 2 月 25 日 (水) に、弘前大学の男女共同参画推進室²の山下梓先生による「災害と多様な性」についての勉強会を実施した。性的マイノリティに焦点を当て、避難所の利用など災害が起きた時にどんな課題が表面化するか、それに対して自治体や支援団体がどんなことができるか、具体的な事例を以って紹介された。25 名が参加し、質疑応答では当事者が支援側に関わるという好事例が紹介され、また、性的マイノリティでありながら障害者や外国人であるなど、複合的な課題がある場合はどのように対応すべきかという質問に対しては、性的マイノリティを支援する団体が複数言語で説明資料を作ったりし、それを外国人に対する災害支援をする団体が活用することで、性的マイノリティの視点にも立った支援ができるようになるといった回答があった。また、海外で性的マイノリティに関する取り組みをする際は、現地の社会文化的な背景も踏まえることが重要であり、その際、現地で性的マイノリティを支援している団体をおして当事者の声を聞くのが有益であるといった助言も得た。



¹ <https://kesenuma-tsubakikai.com/>

² <https://www.equ.hirosaki-u.ac.jp/>

2026年3月6日（金）に、国際女性デーに合わせ、ジェンダー平等推進ワーキンググループ主催、ジャパン・プラットフォーム（JPF）、アイ・シー・ネット株式会社、個人の協賛を得て、『女性の休日』³上映会と交流会を JANIC 加盟団体限定で開催し、48名が参加した。

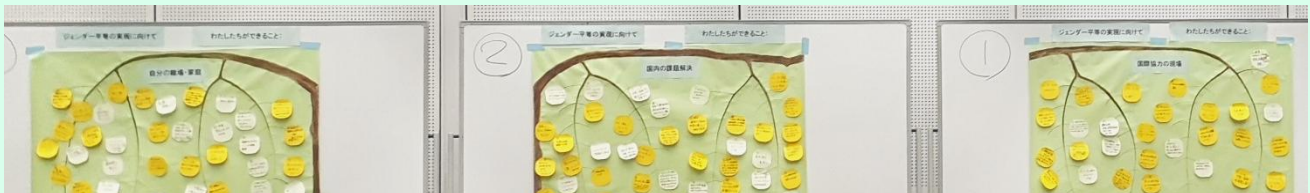
この映画は、1975年10月24日にアイスランドで多くの女性が仕事と家事を休み、女性の権利を訴えたこと、それに至った経緯や準備、参加者の想いを描いており、心に刺さる台詞やユーモアもあり、勇気と連帯の力を感じさせる内容である。



上映後、「国際協力の現場」、「国内の課題解決」、「自分の職場・家庭」という三つの次元でジェンダー平等の実現に向けて私たちができることをグループ



で考えるワークショップを実施した。ディスカッションでは、国際女性デーの象徴であるミモザをモチーフにした付箋に個人の意見を書いてミモザの木に貼り、意見交換を行った。「女性・女児の意見を聞く」、「仕事・家事でやっていることを見える化する」、「違和感に気付く」などの答えが、それぞれの次元の「枝」の「花」になったが、ジェンダー平等の「木」の根本が同じであることがコンセプトであった。



グループ発表で、「女性が男性の考えていることも聞く」、「情報発信が重要である」、「日々の無意識の偏見を取り除いていく」、「映画にあったような、妥協とも言えるが工夫とも言える対策があり得る」、「NGOの合同委員会を作る」などという学び・提案が共有され、参加した女性も男性も映画を通して感じたことを言語化し、内在化させる有意義な時間となった。参加者が映画鑑賞とワークショップで気付いた具体的な工夫をそれぞれの毎日の現場でジェンダー主流化のために活用していくことを期待したい。

³ 映画の公式サイト（スクリーンショットを参照）：<https://kinologue.com/wdayoff/>